

## ソーシャル指標分科会、多様なアセットクラスにおける実践をまとめた事例集『インパクトファイナンスの実践～ソーシャル指標を活用した事例と実務のヒント～』を公開

インパクト志向金融宣言の「ソーシャル指標分科会」は、ソーシャル指標を活用した事例を掲載した『インパクトファイナンスの実践～ソーシャル指標を活用した事例と実務のヒント～』を公開しました。

本事例集は、多様な金融機関や事業会社による7つのソーシャルプロジェクト事例を紹介しています。また、各事例の横断分析を通じて浮かび上がるソーシャル指標や、IMM実践上のポイントや共通課題の抽出を行い、冒頭の「本事例集で読み解くソーシャル指標実務のポイント」にまとめました。本事例集が、社会的インパクト創出に向けた新たな対話や連携の契機となり、持続可能な社会の実現に向けたアクションを後押しする一助となれば幸いです。

【事例集リンク】閲覧用見開き版は[こちら](#)、A4版は[こちら](#)

### 本事例集の要点

#### ■ 発行の背景と目的

環境分野において国際的な指標整備が進む一方で、社会（ソーシャル）分野の課題は受益者や地域性が広範かつ多様であり、共通の指標化を図ることが難しい現状があります。本分科会では、さまざまなアセットクラスの金融機関や事業会社等が集まり、指標の画一的な共通化を目指すのではなく、「みんな違ってみんな良い」という前提のもと、地域や企業にとっての「社会価値」の捉え方と金融の役割を探究してまいりました。

本事例集は、正解となるソーシャル指標（What）を提示するものではありません。各プロジェクトが「なぜその指標を設定し（Why）」「どのように活用しているのか（How）」という実践の姿や試行錯誤の過程を共有することで、社会課題解決に挑む実務家の皆さまへのヒントとなることを目的としています。

#### ■ 本書の特徴と見どころ

- **IMMの枠組みによる実践知の共有**：掲載された7つの事例は、「解決したい社会課題のゴール設定」から「モニタリング・エンゲージメント」、「インパクト情報の活用」に至るまで、IMM（インパクト測定・マネジメント）の共通の枠組み（項目）に沿って整理されており、多様なアプローチの比較が可能です。
- **実務家ならではの「悩み」や「葛藤」の収録**：単なる成功事例の紹介にとどまらず、因果関係の特定やデータ収集コストの壁といったアウトカム指標設定の難しさや、情報公開範囲のジレンマなど、現場が直面する課題やQAも収録しています。
- **多様なプレイヤーによる7つの実践事例**：国内外の上場・非上場株式、融資といった金融アプローチから、事業会社によるソーシャルインパクト債券やソーシャルビジネスまで、機関属性やアセットクラスの異なる幅広い事例を網羅しました。

#### ■ 掲載事例一覧（カッコ内は、属性/アセットクラス/テーマ）

- **事例1**: りそなアセットマネジメント株式会社（運用会社 / 株式（国内・上場株） / 次世代まちづくり）
- **事例2**: ティー・ロウ・プライス（運用会社 / 株式・債券（海外・上場株） / 雇用促進 金融包摂の実現）
- **事例3**: JPインベストメント株式会社（VC / 株式（国内・非上場株） / 地域住民の移動利便性向上）
- **事例4**: 株式会社SBI新生銀行（銀行 / 融資 / 障がい者自立支援）
- **事例5**: コミュニティ・バンク京信（信用金庫 / 非金融サービス（S認証） / 地域振興・中小企業活性化）
- **事例6**: 株式会社ドリームインキュベータ（事業会社 / ソーシャルインパクト債券 / 健康寿命の延伸）
- **事例7**: アステナミネルヴァ株式会社（事業会社 / ソーシャルインパクト事業 / 地域事業・雇用の創出）

# インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

## インパクト志向金融宣言及びソーシャル指標分科会について

**インパクト志向金融宣言**:金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決する持続的な資金循環を生み出すことを目指し、2021年11月に21社の金融機関により設立された民間イニシアティブ。多様なアセットクラスの金融機関が参画し、2026年4月現在77社の署名機関が7つの分科会を中心に活動。

ソーシャル指標分科会は、さまざまなアセットクラスの金融機関、事業会社、格付会社等が集まり、ソーシャル指標(S指標)を軸に地域や企業にとっての「社会価値」とは何か、そして金融に何ができるのかを探究することを目的としています。

## ソーシャル指標分科会メンバーについて

### ■共同座長

- ・松原 稔 リそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 常務執行役員責任投資部担当
- ・石井 規雄 コミュニティ・バンク京信 ソーシャル・グッド推進部 部長
- ・朝野 美里 SBI新生銀行サステナブルインパクト推進部評価室 ※2025年7月時点

### ■事例集作成に向けたコアメンバー(五十音順)

- ・五十嵐 まなみ 独立行政法人国際協力機構(JICA) 評価部 事業評価第一課
- ・石渡 明 株式会社格付投資情報センター サステナブルファイナンス本部 副本部長
- ・今田 克司 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI) 代表理事
- ・大村 龍太郎 インパクトサークル株式会社 インパクト可視化事業 兼 経営企画 事業部長 兼 室長
- ・香川 陽子 元世界銀行・Veritas Global Communications 代表
- ・倉場 基行 JPインベストメント株式会社 商品開発部 シニアアソシエイト
- ・瀬尾 萌 JPインベストメント株式会社 地域・インパクト投資部 ディレクター

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

インパクト志向金融宣言 担当:小笠原 TEL:080-7003-6482 MAIL: idfi\_contact@jidfi.org